

小单元名 「世界とつながる日本の工業」

目標

工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきと、それらを通じた世界各国との結びつきについて調べ、その特色や課題を捉えることから、今後の貿易・海外生産の進め方について考えようとする。

評価規準

観点	評価規準	学習過程の どこで
社会的事象への関心・意欲・態度【関】	① 身の回りの輸入品について、興味をもち調べようとしている。 ② これからの貿易や海外生産をどのように進めていけばよいか、関心をもって考えようとしている。	つかむ ふかめる
社会的な思考・判断・表現【思】	① 工業製品を通じた世界各国との結びつきについて調べる学習問題を考え、表現している。 ② 日本の貿易の特色について調べたことをもとに、日本の工業生産と貿易との関わりについて考え、表現している。	つかむ 調べる まとめる
観察・資料活用の技能【技】	① 日本の工業生産を支える貿易の様子について、必要な情報を読み取り、まとめている。	調べる
社会的事象についての知識・理解【知】	① 貿易や海外生産を通じた世界のさまざまな国々とのつながりが、工業生産を支えていることを理解している。	調べる

第5学年の内容（3）我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

- ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること
- イ 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など

小单元について

本小单元は、前小单元「自動車づくりにはげむ人々」をうけ、原材料の確保や製品の販売などに見られる貿易や運輸などの働きが、工業生産を支える大切な働きをしているという、工業生産に対する認識を広げることを意図として設定した。現在、原油や鉄鉱石、石炭や銅鉱、綿花といった工業原料はほぼ100%を輸入に頼っている。

また、日本は加工貿易がさかんであり、自動車などの輸送機械や機械、電気機械、化学製品といった工業製品が輸出品別の輸出額の上位にあがっている。近年では、現地生産の割合も増えてきており、日本と世界のさまざまな国との工業生産を通じた結びつきも強くなっている。

さらに、TPPに代表されるように、貿易や海外生産を取り巻く状況は日々変化している。日本はかつて輸出額が輸入額を上回る輸出国であったが、近年は国内製品の輸出の伸び悩み、原油・液化ガスの輸入量の増加などの影響によって貿易赤字国になっている。貿易や海外生産は、国内の産業構造や海外との関係性の中で、今後も変化し続けていくものであることを理解できるようにする。

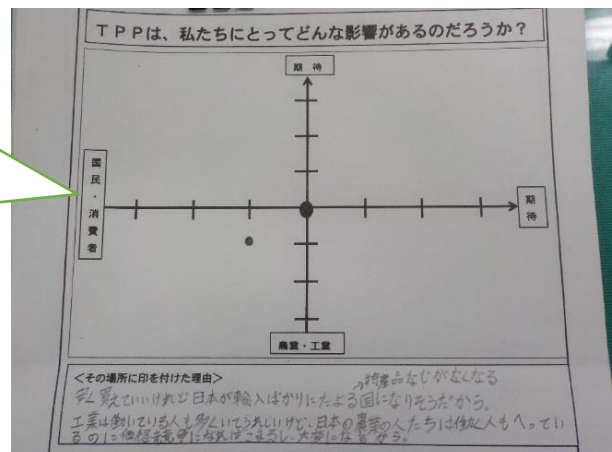
指導計画

つかむ	1	日本の自動車は世界の様々な国に輸出されていることや、身の回りには様々な輸入品があることを知り、学習問題を立てる。 学習問題 日本は工業製品を通じて、世界の国々とどのようにつながっているのだろう。
	2	日本の主な輸出品・輸入品、貿易相手先について調べて、理解することができる。
	3 (本時)	自動車づくりで学習したことをもとに、日本の貿易の特色を理解することができる。
調べる	4	主な工業製品の海外生産の割合の変化について調べ、日本の工業生産と世界の国々との結びつきについて考えることができる。
	5	これまでに調べて分かったことを「貿易」「工業生産」の2つの観点でまとめる。学習問題に対するまとめをする。
ふかめる	6	日本のTPPへの参加が進められていることを知り、TPPについて調べ、関税とTPPの概要について理解する。
	7	TPPはわたしたちにとってどのような影響があるのだろう。 TPPの国内産業や国民生活への影響について考え、これまでの学習を振り返り、貿易の重要性について考えをまとめる。

ふかめる段階の第6時では、TPPを取り上げ、世界の貿易をめぐる話し合いについて考えることができた。子供向けの新聞を事前に配り読んでいたことで、授業にもスムーズに入ることができた。



農業・工業と消費者・国民の2つの立場から考えることで、貿易について多角的に考えることができた。
貿易の問題は合意に時間がかかる。そのため、各国での十分な話し合いが必要だということを理解することができた。



本時の指導（3時間目／7時間）

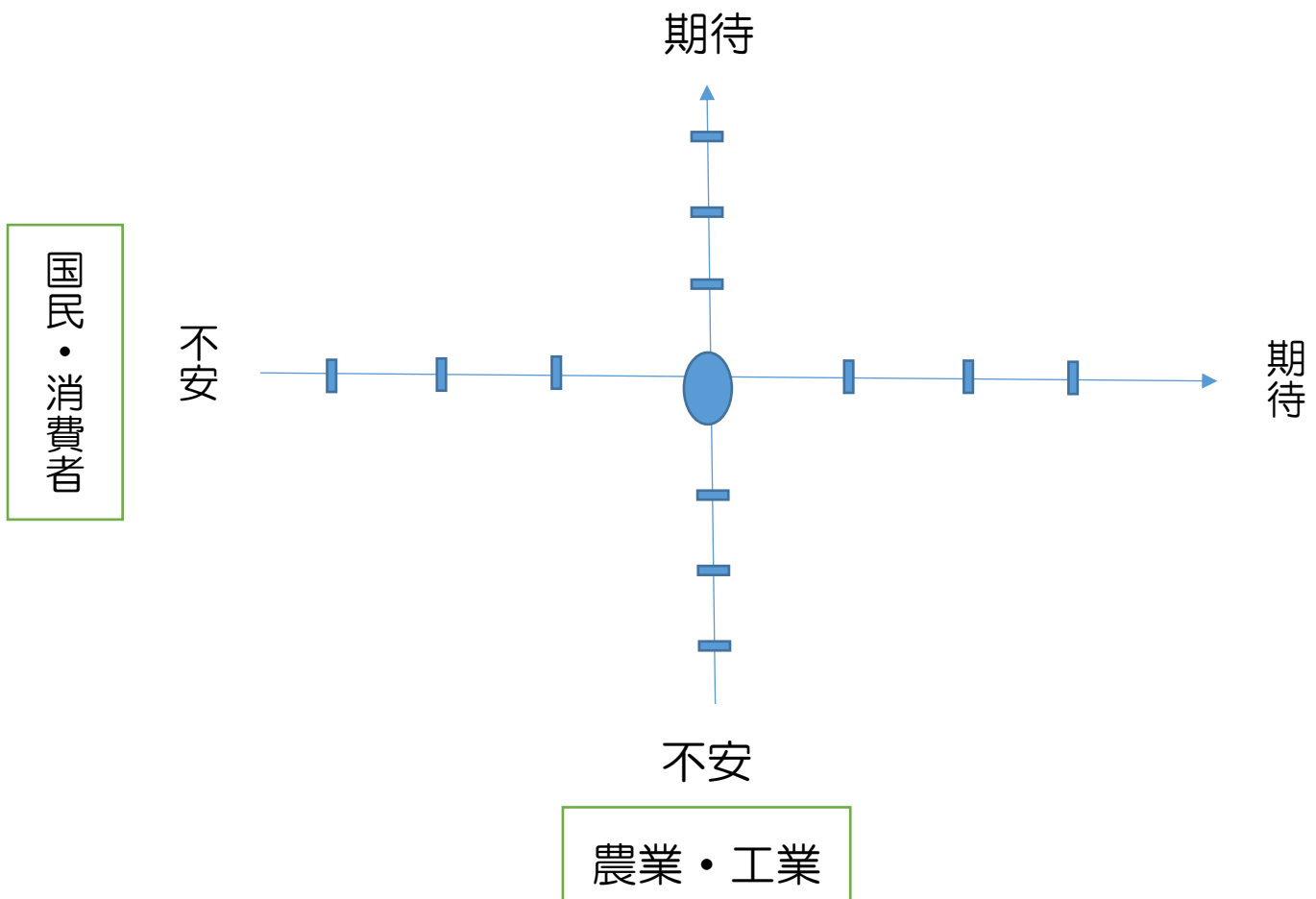
(1) ねらい

自動車づくりで学習したことをもとに、日本の貿易の特色を理解することができる。

(2) 本時展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ◇評価)
導 入	① 自動車の輸出先について復習し、本時の課題をつかむ。 ・アメリカ、中国、オーストラリア、ロシア	
	自動車は世界と、どのようにつながっているのだろう。	
展 開	② 自動車部品の材料は何か考える。 ・コイル材・・・鉄 ・ハンドル（プラスチック）・・・原油 ・アルミホイール・・・アルミニウム ③ 自動車の原材料の輸入相手国と輸入割合を調べる。 ・鉄は鉄鉱石から、プラスチックは原油から作られる。 ・鉄鉱石・・・オーストラリア。輸入が100%。 ・原油（石油）・・・サウジアラビア、アラブ首長国連邦、インドネシア。輸入が99,7%。 ・他にも工場を動かすためのエネルギーである天然ガスもある。 ・天然ガス・・・アラブ首長国連邦、インドネシア、マレーシア、オーストラリア。輸入が97%。 ④ 輸入割合が高い理由を考える。 ・日本は天然資源が非常に少ないため、輸入に頼っている。 ・天然資源の輸入がないと、工業製品を作ることができない。	□自動車工場での見学の様子を想起させ、コイル材の材料から考えさせる。 ◎コイル材、タイヤ、ネジ、ハンドル、アルミホイールの写真 ◎自動車に使われる工業原料の割合 □原材料である原油、鉄鉱石、石炭、天然ガスをまとめて天然資源ということを押さえる。 □原材料である原油、鉄鉱石、石炭、天然ガスをまとめて天然資源ということを押さえる。
ま と め	⑤ 学習課題に対するまとめを書く。 ・日本は自動車を輸出するだけでなく、原材料を輸入することで、世界とつながっている。 ・日本は自動車を輸出している国だけでなく、輸入している国ともつながっている。	□日本の自動車工場が原材料を加工し付加価値を与え、製品を輸出していることに気がつくようにさせる ◇日本の貿易の特色について調べたことをもとに、日本の工業生産と貿易との関わりについて考え、表現している。【思・判】②

TPPは、私たちにとってどんな影響があるのだろうか？



<その場所に印を付けた理由>

バランスシートのよさとは??

- 価値判断が容易である。そのため、立場を明確にして話し合うことができる。
- 1つの事象を多角的な見方で考えることができる。
- 他の社会的事象を考える際にも応用することができる。